

私の一文字



副代表幹事
広報戦略検討委員会／東京オリンピック・パラリンピック2020委員会／
ソーシャル・データ・リサーチ（仮称）設立検討委員会 委員長

高島 宏平

オイシックス・ラ・大地
取締役社長



経営は「変化対応業」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、高島宏平副代表幹事にご登場いただきました。

岡西 高島さんが選ばれた「変」という字は、古代からすごく力の強い漢字といわれています。この文字を選ばれた思いをお聞かせください。

高島 まず、変化対応の「変」です。当社は食品宅配を主力事業とし、大きな変化と小さな変化を繰り返して事業の成長を続けてきました。ほぼ21年会社を経営していますが、時間は平等ではありません。経営は平時と有事では異なります。菌を食いしばらなければならないタイミングに菌を食いしばれるかどうかがすごく大事です。そのときに自分の成功体験を壊しながらやっていかなければならないのが変化対応です。普段の経営スタイルを捨てるのは覚悟が必要なので、経営は変化対応業だということをまず、自分に言い聞かせています。

岡西 カメレオンのようなリーダーを意識されているとのことですが。

高島 有事でいうと、東日本大震災のときの変化対応です。状況に応じてさまざまな立場での役割を担いながら、事業を進めました。その中で、僕たちは日本で初めて、生鮮食品の全量検査を行いました。検査結果は全てオープンにして、安心、安全につながる情報の開示に努めました。普段とは全然違う働き方でしたが、自分たちの使命を実現でき

たと思いました。

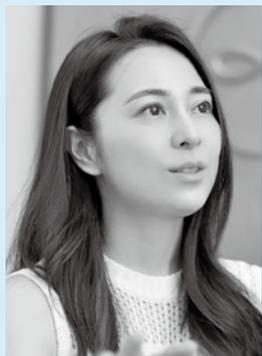
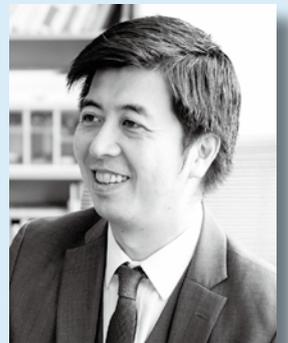
当社は同業他社であった「大地を守る会」と「らでいっしょぼーや」を統合しています。僕は社員の3分の1にとっては創業社長ですが、他の社員にとっては後から突然来た社長です。僕に対する期待値や感情も全然違う。社員によって見方が異なる存在になったときがありました。その際に思ったことは、結局自分がつくった会社であろうがなかろうが、結果を出す以外に何もないということ。そのためには、創業社長としてではない、違う自分にならないと結果を出せないという経験がありました。

また、変な人でないとイノベーションは起こせないと思うづく思っています。社会を変えられる人は自分の力を信じる異常な力、何事にも揺るがない異常な強さが必要だと思います。

岡西 経済同友会での今後の取り組みをお聞かせください。

高島 経済同友会のあり方として、社会が求める経済団体とは何かに尽きると思っています。これからの社会を逆算したときに、どのような経済団体が存在すると社会がより良い方向へ向かっていくのか。

経済同友会では広報担当でもあるので、メディアの方々や社会と接点が多い。発信してだけでなく、社会のニーズを受信して経済同友会にフィードバックし、経済同友会が社会に必要な存在になっていくといい。副代表幹事として、社会と経済同友会内部とのつなぎ役が僕の一つの役割だとも考えています。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。